

天草がうんだ偉人

森國久 〈1912-1961〉 について



[写真左] 天草諸島のうち、不知火海側の青い海に浮かぶ森國久の故郷、樋島の全景

森國久の治めかた

☆ **天草五橋の着工に向けてもっとも奮闘努力した政治家**

☆ **一村、一町、一市のためにとどまらず、天草全域・日本全国の離島の地域再生・地域創生を推進した政治家**

☆ **想像力、プラン構想力と決断力・実行力が全身にみなぎっていた政治家**

☆ **自分の利益をいちばん後回しにした日本一の貧乏政治家**

☆ **常に住民とともに歩み、一緒に汗水を流した政治家**

☆ **日の当たらない人にも手をさしのべ、励まし続けた政治家**

☆ **本物の「住民自治」のひな形をつくり、それを日本の未来への大きな社会遺産として残してくれた政治家**

森國久は こんな仕事をした

★熊本県離島振興協会副会長（会長は県知事）として、全国離島代表者決起大会に出席し、離島天草の存在を訴えました。

★内閣の離島対策審議会委員に就任し、全国の離島予算枠を確保することに決定的役割を果たしました

★全国離島振興協議会の副会長に就任し、天草諸島全域の第一次離島指定達成に多大の貢献を果たしました。

★天草架橋期成会副会長、天草振興協議会初代会長に就任し、天草架橋をめぐる中央政官界での交渉を日夜、中心となって進め、上島循環道路の建設、雲仙天草国立公園の実現のために懸命に努力しました

★天草の樋島村村長に就任し、新しい福祉政策、簡易水道の敷設、助産院の開設、青年団の協力を得た村道の舗装化を精力的に進めました。

★竜ヶ岳村初代村長（のち町長）として水道敷設事業の推進、パイロット・ファーム事業構想の立案・計画推進に敏腕をふるいました。

★民俗学者の宮本常一との論争を踏まえて「一人一円献金運動」を立案、提起し、天草架橋実現への住民の熱意を大いに喚起することに成功しました。

1912 熊本県天草郡樋島村（現在の上天草市龍ヶ岳町）に生まれる

1951 天草郡樋島村長に就任（38歳）

1953 全国離島振興協議会副会長に就任

1954 龍ヶ岳村の初代村長に就任（41歳）

1955 （内閣）離島振興対策審議会委員に就任

1956 天草郡町村会長・天草振興協議会長に就任

1959 龍ヶ岳町の初代町長に就任（46歳）

1960 熊本県町村会副会長に就任

1961 6月、天草五橋着工の最終交渉のため上京の途上、過労のため熊本市内で急死（享年48歳） 7月、五橋着工決定